

No.創出-3-2	植栽種選定における在来種の活用
-----------	-----------------

技術の目的

植栽に在来種を活用することにより、在来の生き物の生息に配慮し、地域本来の生物多様性の向上を図る。

導入する局面	創出	維持管理	利活用
適用空間	水域		陸域

技術の内容・事例

■技術の内容

- ・ 植栽種を選ぶ際には、植栽地の環境（日照、土壌など）や安全性などを考慮した上で、在来種の活用を図る。
- ・ 東京都潜在自然植生図によると、本区の在来種は、タブノキ-イノデ群集およびムクノキ-ミズキ群落に属する以下の表の植物種と推定される。また、現地周辺の自然地に生育する在来種を調査することで、植栽地に適した在来種を選ぶことができる。

表 中央区の在来種であると推定される植物種の一例^{出典1}

項目	タブノキ-イノデ群集 (潜在自然植生 ^{※1})	ムクノキ-ミズキ群落 (代償植生 ^{※2})
高木層	タブノキ	ウワミズザクラ、エノキ、ミズキ、ムクノキ
亜高木層	シロダモ、ヤブニッケイ	イロハモミジ、エゴノキ、ムクノキ
低木層	ネズミモチ、ビナンカズラ、ヤツデ、ヤブツバキ	アケビ、ネズミモチ、ヒサカキ、ビナンカズラ、マユミ、ムラサキシキブ
草本層 (林床)	アイアスカイノデ、アスカイノデ、イノデ、キチジョウソウ、キツタ、シケシダ、ペニシダ、ヤブラン	イヌワラビ、アマチャヅル、キツタ、シケシダ、ジャノヒゲ、ミズヒキ

注) ※1 潜在自然植生：人間の影響を一切停止したとき、気候や立地条件からその立地に生じると判定される自然植生
 ※2 代償植生：人間によって、伐採や植林などの手が加えられ、立地本来の自然植生が 様々な植生に置き換わった植生（二次林など）

■出典・参考資料

- ・ 1 東京都環境局「植栽時における在来種選定ガイドライン～生物多様性に配慮した植栽を目指して～」(平成26(2014)年5月)
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/green/green_biodiv/ns_guidelines.html

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
				◎	

注) ◎：当該技術の主要な機能、○：当該技術の副次的な機能

